

国境を越えたヒロシマの記憶と連帯：在韓被爆者と日本の市民社会

ハンガリー出身の私は、13年以上日本に在住している。来日前はずっとハンガリーで暮らし、教育もすべてハンガリーで受けてきた。学生時代に広島・長崎の原爆投下について学んだ内容は、「原爆が投下されて第二次世界大戦が終わった」というものだった。当時は、日本人や外国人を含む被爆者についてもほとんど知識がなく、原爆投下を単なる歴史上の出来事としてしか捉えていなかった。

2011年、青森県弘前大学に留学中、「戦争文学」の授業で漫画『はだしのゲン』を読んだことが、原爆投下を初めて人道的な立場から考える契機となった。平和な環境で生まれ育った私にとって、ゲンの被爆体験や家族を失う描写は大きな衝撃であり、戦争の現実を自分の問題として受け止めるようになった。

その後、原爆投下の歴史をより徹底的に研究するため、2014年秋に広島へ移り、広島市立大学博士後期課程に進学し、韓国在住被爆者（以下、在韓被爆者）の研究を始めた。なぜハンガリー出身の私が在韓被爆者の歴史に関心を持つのかとよく問われるが、彼らは全被爆者の一割前後を占めるにもかかわらず、長年忘れられてきた存在であったからである。在韓被爆者に関する英語文献は非常に少なく、ヨーロッパでは在外被爆者の存在自体がほとんど知られていないため、この歴史を自分なりに掘り下げ、博士論文や他の出版物を通して国際的にも広く伝える決心をした。

この歴史を研究し始める中で、在韓被爆者の存在は、日本の加害の歴史を抜きに語ることはできないということに気づいた。私は当初、被爆者は全員日本人だと思っていたが、韓国にも被爆者がいると知った瞬間、なぜ被爆当時、朝鮮半島出身者が広島・長崎にいたのかという疑問を抱いた。研究を通じて、日本の植民地支配、植民地支配下での厳しい経済政策、強制連行・強制労働の実態などを初めて知った。アジア史を以前ほとんど学んでこなかった私は、この歴史的背景を知ったことで、原爆投下を教える際には1945年8月6日からではなく、日本帝国による植民地拡大の過程から語る必要があると考えようになった。また、原爆投下は単なる「戦争の終結」ではなく、帝国主義や植民地支配と密接に関連する出来事として捉えるべきだと感じるようになった。



Profile
広島女学院大学 人文学部
国際英語学科 准教授
ドゥロー・アーゴタ (Duró Ágota)

ハンガリー出身。広島市立大学大学院国際学研究所国際学専攻博士後期課程修了(2017年)。学位：博士(平和学)。2023年より広島女学院大学人文学部国際英語学科に着任。現在は「平和学」「ヒロシマと平和」、文化・グローバル系科目、異文化関連科目などを担当している。日本の市民社会による在韓被爆者支援運動を主な研究テーマとし、原爆の集団記憶、植民地支配の歴史、トランスナショナルな連帯のあり方、日韓和解などについて研究を行っている。英語で執筆した博士論文は、2026年にBloomsbury Academicより著書として出版予定。専門である平和学を生かし、今後も原爆投下の歴史や広島が発信する平和の意義について教育・研究に取り組んでいきたいと考えている。

論文では、在韓被爆者を支援した日本の市民社会運動に焦点を当てた。1957年以降に制定された被爆者援護法は日本国内にしか適用されず、在外被爆者は日本政府が提供する医療や手当を受けられず、長年不平等な扱いを受けてきた。1960年代には平岡敬氏(広島元市長、当時中国新聞の記者)の報道、社会的な変化をもたらした新左翼運動の高まり、韓国からの被爆者の密入国事件などを契機に、日本の市民が在韓被爆者の存在を知り、小規模な支援運動が各地で広がった。1970年代以降、裁判闘争が続き、日本人支援者は法的・経済的・医療的支援を粘り強く行ってきた。その結果、数回の勝訴を経て、最終的には2015年(被爆70年後)、日本の最高裁判所が在外被爆者の権利を認める判断を示し、日本在住被爆者とほぼ同等の権利が保障されるに至った。

この歴史は、かつて植民地支配を行っていた国の市民が、植民地支配下の被害者を支援し、市民レベルで和解と友好関係を促進した例である。また、在韓被爆者支援運動は、日本の市民社会の意義を示すとともに、他の未解決の戦争問題に向き合う際の一つの模範となり得ると考えている。この研究を通じて私は、注目されてこなかった歴史の重要性を学び、原爆投下を多面的かつ構造的に理解する必要性を強く感じるようになった。さらにこの経験は、原爆の記憶を主流の語りだけでなく周縁の歴史からも掘り起こすことが、現在の不正義を問い直し、より公正な社会を構想する力を持つことを私に教えたのである。

ようこそ！ 公民館へ ～南区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 あすなるコーラス 段原公民館

みんなの歌声が重なって美しいハーモニーが生まれた時に、一体感と素敵な感動を味わうことができる。コーラスにはそんな魅力があります。

私たちは女性コーラスグループ「あすなるコーラス」です。メンバーは現在9人(60代～70代後半)で、毎月第2・4水曜日午後1時～3時に活動しています。グループ発足は1982年で、段原公民館の開館当初から40年以上も続いているグループになります。

歌う曲はみんなで相談しながら、童謡からJ-POPまで、また最近では手話を取り入れるなど、幅広く色々な曲に挑戦しています。南区民文化センター「さざなみコーラス」や段原公民館まつりでの発表を目標に、日々頑張っています。現在、高齢者施設への慰問も計画中です。

月に2回の活動ですが、気持ちを一つにしてみんなで歌を歌うことで、心と体が若返っているように感じます。

コーラスが初めての方、関心をお持ちの方、大歓迎です。みなさんも私たちの仲間になりませんか。いつでも見学にお越しください。



2 男のお手軽料理会 楠那公民館

高齢者の男性が料理の基本を習得して家庭で料理を作れるように、広島市仁保・楠那地域包括支援センターに公民館へ来

ていただいて料理を習っています。

料理教室は月に1回、第1月曜日、「料理を調理して食べたい」と初心者で結成したグループで平成22年から活動しており、今年で16年目です。

初めは、「どんな服装で来ればいいのか?」「どんな物を持って来ればいいのか?」と迷ったものです。それに、包丁を扱ったことがありませんでした。野菜の種類や魚の種類、肉の種類、「何の料理にどんな切り方が必要か?」が理解できたように思います。そして、「どんな調理器が必要か?」「あと片付けはどのようにすればいいか?」が分かったように思います。

ごはんの炊き方や味噌汁の作り方ははじめ、今は玉子焼きの作り方を練習中です。家庭でごはんを炊けるようになり、買い物の見方が変わり料理の幅が広がりました。

料理が好きな方、私たちと一緒に楽しみながら料理をしてみませんか。



3 宇品神楽同好会 宇品公民館

宇品神楽同好会は、平成31年4月、宇品在住の5人の子どもたちで活動をスタートしました。現在、年長から40代まで18人が在籍し、世代を超えて神楽に親しんでいます。

第1・3土曜日は年長から小学生が、第2・4土曜日は中学生と大人が、芸北神楽や石見神楽の練習に励んでいます。練習の成果は、公民館まつりや子ども食堂などで披露しています。

練習では、自分がやりたい演目や配役に取り組んだり、自作の神楽道具を使ったりなど、「神楽ごっこ」から始まった楽しさを大切にしています。その中で、自然と伝統芸能に触れ、神楽の型を身につけていく場となるようにしています。

発表の際には、保護者が手作りした衣装を身にまとい、本物さながらの装いで舞台に立ちます。子どもたちの生き生きとした姿に、地域の方からは「よう舞いよるね」「見るたびに上手になっとるね」と温か

い声が寄せられています。

「自分の楽しみが、周りの人の楽しみになる」。神楽の魅力を通して、こどもと地域の元気につながる活動を続けていきたいです。



4 似島健康マージャンクラブ 似島公民館

「似島健康マージャンクラブ」は、令和7年5月発足の新しい会です。会員は、その前月開催の似島公民館主催「似島健康麻雀こふじ荘」への参加者が中心で、おおむね毎週土曜日の午後1時～4時の3時間、似島公民館で活動しています。

麻雀は、手と頭を使うため、認知症予防になると言われています。また、島の高齢者にとっては、外出をして人に会う機会にもなっています。しかし発足以降、公民館日よりフェリー待合所へのポスター掲示などで会員募集をしていますが、なかなか会員が増えないのが悩みです。もちろん島外からのご参加も大歓迎です。フェリー代がかかるのは致し方ないのですが、普段活動をしている似島公民館研修室1の窓の外に広がる広島湾の眺めは最高です。

会費は1回200円。海の見える部屋での健康マージャンで、心も体も健康になりましょう。ご参加をお待ちしております。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 段原公民館 …………… ☎082-281-3792
- ② 楠那公民館 …………… ☎082-255-2187
- ③ 宇品公民館 …………… ☎082-253-2529
- ④ 似島公民館 …………… ☎082-259-1100

名人宝人 達人

Interview 1

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。地域活動やまちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

パソコン・スマートフォンの指導 あだち かつゆき
安達 克之さん

「わからない」で終わらせない、 高齢者向けスマホ教室

デジタル化が進み、スマートフォンでさまざまな情報取得が可能となったいま、一見便利になったように見えるものの、情報弱者と言われる世代には慣れない作業が増えたのも現実。大学卒業後、コンピューターシステムの開発に40年以上携わった経験から「自分にできることで誰かの役に立てたら」と令和6年2月に人材バンクに登録し「高齢者向けスマホ・パソコン・インターネットなんでも相談受付」を行っている安達さん。

安達さんの開催する講習会では、商業施設の会員サイトやマイナンバーの申請など、生活に密着した内容が特徴です。「例えば、よく利用する商業施設で勧められてアプリを入れたけど、活用できていない人がほとんど。上手に利用できれば手軽に情報収集でき、日々の買い物などの役に立ちます。また確定申告も税務署に行かなくてもできるようになるなど、さまざまなメ

リットにつながる」と安達さん。自身もマイナポータルに登録時に感じた気づきなどを講習会に生かし「わざわざ窓口に行って待たされずに手続きができるように」とサポート。講習会を受けた参加者はとても熱心に話を聞いてくれるそうで「とても勉強になった」と前向きな声が多く聞かれるそうです。

また「情報弱者である高齢者を詐欺などの被害から守りたい」と、メールやウェブサイトなどのセキュリティの周知にも注力し、どんなメールが怪しいか具体的な例を挙げて紹介するなど、身近に潜むデジタルに関するリスクや、危険を回避する術もレクチャーしています。

「わからないからと恐れることなくデジタル環境と上手く共存できるのが理想。また、慣れてる人でも詐欺被害にあうこともあ

るので、変化について行きながら常に新しい情報をみんなでシェアしていけたら」と語ります。

日々進化し続けるデジタル環境は、私たちの生活を豊かにしてくれます。そのような中、高齢者が取り残され、情報格差ができないよう活動している安達さんの存在を心強く感じました。



▲安達克之さん



▲楠那公民館で開催された講習会の様子(令和8年1月)



まちづくりボランティア人材バンク達人を紹介してもらうには・・・

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を生かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアに来てほしい、教えてほしい」団体・グループをつなげるシステムです。

現在 150 人余りの達人が約 180 件のボランティア活動で登録しています。令和 7 年 1 月～ 12 月の 1 年間に 310 件程度の達人紹介の申し込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約 270 件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する中で、「お願い!達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どういった団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をやる行事なのか、

希望する達人を所定の申込書へ記入します。
※紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザ HP、ひろしま情報 a-net から入手できます。

※申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 広島市まちづくり市民交流プラザへ申し込み

当プラザへ、FAX、Eメール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただくことがあります。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。(連絡・調整には、1週間程度かかります。)

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

Interview 2

瀬戸内海の魅力を紹介 のぶとう やすし
延藤 靖さん

瀬戸内海に浮かぶ島々を写真で紹介 魅力を発信し非日常を体感

穏やかな気候と多島美が織りなす変化に富んだ美しい景観、歴史と文化が色濃く残る瀬戸内海の島々を、自ら撮影した画像で紹介している延藤さん。

広島テレビ局に在職中、番組制作で訪れた島は瀬戸内海で93カ所、瀬戸内海以外では18カ所に及び、そこで感じたのは「瀬戸内海はまるで宝のような存在」という気づき。そんな思いを胸に、定年退職後には天候の良い日に瀬戸内海の島々に出向いて写真を撮影し、6年間で30,000枚余りにもなる写真を撮りためました。島を訪れる度に感じる瀬戸内海の魅力を発信すべく、人材バンクに登録したのは令和7年2月のこと。講座「いま行きたいいま乗りたい瀬戸内海の島めぐりと船の旅」は、1年間で14回の開催となっています。

講座では厳選した写真400枚余りをテレビ番組風に構成し、スクリーンいっぱいのサイズで上映します。上映時間は60～120分と要望に合わせて対応。映像には延藤さん自身の言葉で説明を付け加えていき、「いま行きたい個性豊かな島5



▲講座「いま行きたい いま乗りたい 瀬戸内海の島めぐりと船の旅」の様子

選」島に刻まれた戦争の記憶」など、いくつかの章で紹介します。長年テレビ界で培った「テレビは映像が命」の精神で、見る人の心を躍らせる美しい映像が繰り返しられます。

「自分は話すのがあまり得意ではないので、瀬戸内海の映像、風景、景観を目で堪能し、島めぐりをしている気分を味わってもらえたら」と控えめな微笑みを浮かべる延藤さん。しかし、島めぐりに欠かせない航路は、近年の過疎化や交通網の再編で瀬戸内海に大きな影響を及ぼしているようで「この5年間に三原・因島フェリーをはじめ6つの定期航路が廃止になっている。このような状況もあり「いま行きたいいま乗りたい」という言葉をタイトルに添えた」と思いを込めます。

一方で、旺盛な知識欲を発揮し、公民館や合人社ウエンディひとまちプラザでのさまざまな講座に足を運び、昨年は計48回も受講したとのこと。「自分にはないところをもっと吸収したい。一日に午前と午後、別々の公民館で受講のはしごをしたこと」と話す延藤さん。色々な経験が自身の講座や、これからの活動により良い影響をもたらすことでしょう。延藤さんの今後のますますの活躍に期待します。



▲延藤靖さん



▲講座で上映される写真の一部

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。いよいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料などを報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力をお願いします。

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち(登録ボランティア)の紹介・あっせんをしています。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけ

ますので、どうぞ来館ください。

日時/4月25日(土)、6月27日(土)、7月25日(土)

毎月第4土曜日 午後2時～3時半

※時間は変更になる場合がございます。

※テーマはプラザ HP やチラシでお知らせします。

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。
※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。

※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費などの実費は、申込団体にご負担いただきます。

ボランティア紹介・登録などの申し込み・問い合わせは・・・

広島市まちづくり市民交流プラザ(合人社ウエンディひとまちプラザ)
☎(082)545-3911 FAX(082)545-3838